



2024.2.1 発行

Little Tern Project

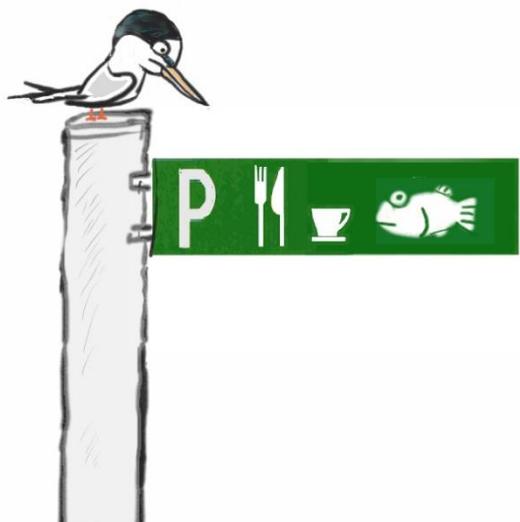
こあじさし

koajisashi

NPO法人

リトルターン・プロジェクト通信

◆このプロジェクトは東京都下水道局と大田区の協力を得ています。



遊

Contents

- ◇ 2023年度 営巣調査結果報告 奴賀俊光 1
- ◇ 2023年度 NPO 法人リトルターン・プロジェクト 活動報告 2
- ◇ 何もわかっていない鳥のこと 第13回 「シジュウカラ」 蓮尾純子 3
- ◇ まもる君、鳥学会でのポスター発表・ハクビシンの侵入経路とその対策・表紙の言葉 . . . 4

2023年度 営巣調査結果報告 調査研究部会 奴賀俊光

2023年は、昨年以上にコアジサシの飛来数が少なく、産卵数も少なかったため、カラス類に卵が捕食され、ヒナのふ化まで生き残る巣はありませんでした。ここ数年、6月になると、営巣に失敗して、他の場所から引っ越してくるコアジサシの群れがいたのですが、今年は引っ越し組もなく、静かな営巣地でした。

2023年の結果としては、成鳥最大数24羽、総営巣数12巣、ふ化数0羽、となり、コアジサシは、11年ぶりに巣立ち0羽(2012年以来)、12年ぶりにヒナ0羽(2011年以来)でした(図1, 2)。

コアジサシの結果は残念でしたが、シロチドリ、コチドリはヒナを確認できました。シロチドリは、合計4巣、11卵、まもるくんの効果もあり、全てでヒナがふ化したと思います(図3)。しかし、カラス類やチョウゲンボウなどの捕食にあったのか、大きく育った幼鳥は1羽を確認したのみでした。

毎年6月、7月になると、ヒナを狙ってチョウゲンボウがやってくるのですが、今年もチョウゲンボウはやってきていました。さらに、センサーカメラでは、昨年ほどではないかもしれませんが、ハクビシンも時々侵入していることがわかりました。これらの捕食者対策のため、新型まもるくんの開発や新たな侵入防止対策を少しずつ行なっていきたいと思っています。

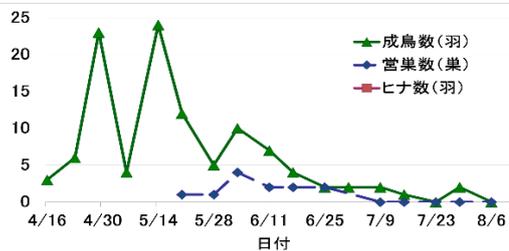


図1. 2023年営巣調査結果



図3. シロチドリの親子 (写真: 鈴木郁)



<2022年の様子>

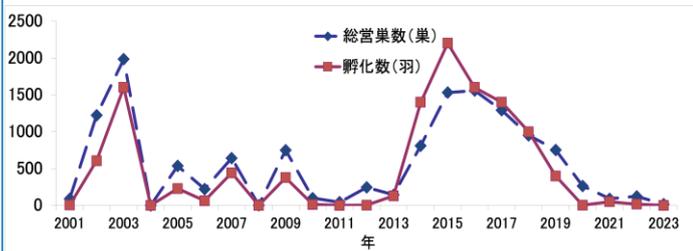


図2. 経年変化



元気な雛や幼鳥の姿が見たいですね！！

2023 年度 NPO 法人リルターン・プロジェクト 「活動報告」

- 1月22日 🐦 野鳥公園デコイ作りイベント参加～東京港野鳥公園。
 1月28日 🐦 葛西臨海公園デコイ設置作業参加～葛西臨海公園。
 2月1日 🐦 こあじ冊子 50号発行。
 2月12日 🐦 第22回おたエコフェスタワンダーランド参加～池上会館。
 2月26日 🐦 柏環境ステーション、デコイ補修作業参加～葛西臨海公園。
 3月25日、26日 🐦 ボランティア整備作業・雨天により中止。
 4月2日・9日 🐦 スタッフによる整備作業(3月25日、26日の整備作業が雨天中止の為)。
 4月29日 🐦 デコイ設置作業参加者 62名 約700体を設置。
 4月29日 🐦 調査講習会&スケジュール。
 ➤ 5/6/、5/14、5/20、5/28、6/3、6/11、6/17、6/25、7/1、7/9、7/15、7/23、7/29、8/6(2回中止、延べ163名が参加)
 6月1日 🐦 こあじ冊子 51号発行。
 6月4日 🐦 近隣営巣地視察～中央防波堤外側処分場(参加13名)。
 6月10日 🐦 近隣営巣地視察～茨城県波崎方面(参加10名)。
 6月25日、7月1日 🐦 コアジサシ観察会 主催 LTP 共催:大田区、協力:森ヶ崎水再生センター。
 6月25日 参加者 59名
 7月1日参加者 38名(大雨の為、当日キャンセルが多く、雨天観察会となった)。
 6月15日～7月2日 🐦 世界アルバトロスデー(主催:世界アルバトロスデー実行委員会:東京港野鳥公園)に参加。6月17日森ヶ崎営巣地にてエクスカーション～LTP 主催～参加者 25名。6月18日、東京港野鳥公園にて対面&オンライン講演会で LTP の活動について講演。
 9月15日～18日 🐦 日本鳥学会(金沢大学)シロチドリ保護用格子『まもる君』に関する発表。
 10月1日 🐦 こあじ冊子 52号発行。
 10月1日 🐦 デコイ回収作業実施。
 10月22日 🐦 いつつのわふれあい祭り、出展。
 11月4日、5日 🐦 ジャパン・バード・フェスティバル参加(千葉県我孫子市手賀沼:アピスタ会場 2階ギャラリー)「バードカービングで社会貢献」をテーマに内山春雄氏、NPO 法人かしわ環境ステーションと協働で出展。
 11月19日 🐦 里地里山フェスティバル(東京港野鳥公園)に出展。
 11月26日 🐦 フィールド アシスタント ネットワーク主催 学生バードソン参加。
 12月2日 🐦 NPO 法人リルターン・プロジェクト講演会開催。共催:大田区・協力:東京都下水道局森ヶ崎水再生センター(大田区民ホール・アプリコ展示ホール)
 ○整備作業、営巣結果などの報告。
 ○特別公演:日本バードカービング協会会長内山春雄氏の講演。
 12月25日 🐦 (株)地域環境計画(株)エスアイエイ環境事務所、井上剛氏とハクビシンの侵入経路の現場調査。

<取材、記事掲載関連など>

『月刊下水道』4月号に LTP 関連記事掲載。

<ネットニュース関連>

SNS で検見川浜で踏まれた卵をツイート(7/3)、ヤフー、mns、毎度なニュースなど主要ネットで話題になる。

上記、検見川浜関連で共同通信が全国配信(7/24)で、日経新聞(7/26)、毎日新聞(7/30)、東京新聞千葉版(8/18)などに関連記事掲載。

<その他>

Otona no Radio ALEXANDRIA ラジオ番組に出演(TOKYO FM)(7/31)。

大田観光協会発行『観光ガイドブック』(1000円)にて営巣地が紹介される。

大森まちづくりカフェ取材(11/28・2024年2月掲載予定)。

<今後の予定>

◎営巣地整備作業 3月23日(土)、24日(日)に実施予定。



4月29日 デコイ設置作業



7月1日 雨の中のコアジサシ観察会



7月23日 営巣調査



11月4日 ジャパン・バード・フェスティバル



11月19日 里地里山フェスティバル



12月2日 LTP 講演会:講演する内山春雄氏

何もわかっていない鳥のこと 第13回「シジュウカラ」

蓮尾 純子



シジュウカラがない

手前の親鳥から餌をもらう雛。順番待ち、5月

1975年12月、行徳野鳥観察舎に住込みで働くようになって、さみしく思ったことがありました。シジュウカラがないのです。都内文京区の実家でも、中野区の実家の主人の実家でも、シジュウカラはごくあたりまえに目にする鳥で、餌台の常連でした。身近で生き生きとした生態を見せてくれる活発な小鳥。熱心な研究者によって、鳴き声には合図だけでなく、文章のような意味合いが含まれることも知られてきたほどです。

50年前の行徳ではシジュウカラはまず見かけない種類。じっさい、1976年2月から今も続く毎日の「観察舎から見られた鳥」の記録でも、シジュウカラの初記録は1978年5月14日。次の記録は1980年10月までありません。1980年代にはぼつりぼつりと見られていますが、ほとんどは10月から4月の冬期でした。神奈川県でも昔はシジュウカラは冬鳥、と鳥の大先輩の岡田泰明さんが書かれていたのを覚えています。

都市で暮らす野鳥たちの謎

1991年6月、初めて家族群の声を記録。この少し前(1980年代前半のどこか)に、市川市菅野の白旗神社で市川高校の故石井信義先生がおそらく市街地では初めてのコゲラの繁殖を見ておられます。貴重な発見を記録せず聞き流してしまったことが悔やまれます。

行徳のシジュウカラはまず冬鳥として定着し、一年中生息するようになったのは21世紀に入ってから。2007年以降はシジュウカラは普通に見られる留鳥になりました。千葉や神奈川の海岸沿いの地域で、何故にシジュウカラは冬しか見られなかったのか。ひところは、行徳をはじめとする東葛地域は太古の時代に海であり、シジュウカラが住めない場所だった記憶が、何千年を経ても引き継がれているのではないかとさえ思っていました。

しかし、コゲラもそうでしょうか。行徳のコゲラの初記録は1990年7月。冬鳥ふうの時期はなく、2010年からはほとんど毎月記録され、この年の5月には親子と思われる姿も見られています。近年は都内でふつうに見られ、繁殖もしているエナガは、行徳では何回かの越冬例の後、2017年11月から2020年2月までは途切れなく記録されていますが、今ひとつ安定していません。断続的な滞在記録をもつヤマガラも、2021年7月3日にはヒナ4羽連れの子が見られています。

明るい林を好むシジュウカラやエナガ、コゲラ、照葉樹林が好きなヤマガラ。それぞれが好む環境が育った、というだけでなく、人間や人工物の存在を鳥が受け入れ、積極的に利用する姿勢も育ったのか。他種との競合も関係するのか。小型の猛禽類のチョウゲンボウは1970年代、ツミは1990年代ごろから街なかに進出。21世紀にはオオタカも。

なぜ？ どうして？ 身近な鳥が増えるのはうれしいのですが、わからないこともどんどんふえるばかりですね。



公園の格子ごしに餌をやる親鳥、6月

行徳では、湿地、次いで造成地の時代にはシジュウカラが進出できず、木々や下草、虫が増え、巣作りの場所もできた30年後、都内と同様にごく普通種になった、という筋書きが思い浮かびます。



写真左、巣材の苔を運ぶ親鳥、3月



写真下、人家の隅で日向ぼっこ（羽についた虫の除去？）する成鳥左と幼鳥右、7月末

11年前に東京大学で開かれた鳥学会で発表されたまもる君、森ヶ崎屋上営巣地での試行錯誤の結果、コアジサシへの適用を諦めました。しかし屋上で営巣するコチドリとシロチドリでは無事に卵を守りヒナの誕生を迎えています。

通常は営巣を確認してから巣にまもる君を被せるのですが、今年はシロチドリがまもる君の中に卵を産み、無事にヒナが産まれました。

まもる君の中に自分から入るのも、まもる君の中で卵を産んだのも初めてのことなので、事例報告として鳥学会でポスター発表しました。多くの方にポスターをご覧いただきご説明させていただきました。

シロチドリ研究者には特に興味を持っていただき、わざわざ見に来てくださり、まもる君の話で大いに盛り上がりました。まもる君の今後の可能性と、本当にまもる君を選んで巣を作ったのか？についてご提案をいただき、来年は森ヶ崎屋上でまもる君追加実験を予定しています。

今後の可能性として、まもる君の設置時期の見直し検証により、初卵の確認から設置できる可能性があります。カラスの捕食から守れる巣が増えそうです。



まもる君の中で抱卵するコチドリ



金沢大学鳥学会ポスター発表会場 9/16

ハクビシンの侵入経路とその対策

ハクビシンによる卵や幼鳥の捕食が懸念されるため、12月25日、害獣対策の専門家である井上剛さん「(株)地域環境計画・(株)エスアイエイ環境事務所」に営巣地を一回りして侵入経路、侵入可能性のある場所、必要な対策についてのアドバイスをいただきました。

ハクビシンがどこから営巣地に登ってくるのか、実際に営巣地の下から視察しました。すると、北側の植樹にハクビシンの爪痕が確認され、さらに西側のパイプなどに登った足跡を複数箇所を確認しました。また営巣地北側の何か所かでハクビシンの糞も確認できました。井上さんからのアドバイスを今後の対策に活かしていければと思います。

△営巣地にかかる木の枝は侵入経路の可能性があるので、剪定したい。また登れそうな木やパイプには有刺鉄板を巻くと良い。

△侵入経路に使っていきそうな木の周囲に電気柵を設置するとさらにより、営巣地全体を電気柵で囲むのは難しい。

△ハクビシンは電気柵に慣れるので、電気柵を警戒する2~3ヶ月程度の仕様が理想。(鳥が電気柵に触れても死亡することはない。) 以上。

報告 奴賀俊光 増田直也



両脇の支柱の太さがハクビシンがつかめる太さ。すでに不用と思われるので取り払った方が良いとのこと。



北側の植樹帯を囲むように部分的に電気柵をつけてはとの提案。



5本指のハクビシンの足跡がくっつきついたパイプ。



ハクビシンの糞。

表紙の言葉

冗談の通じない人に、冗談を言うほど空しいことはありません。中国、杭州の西湖に漫画集団有志で旅をした事があります。朝食前に湖を散歩していたら、茂った蓮の葉の間からよきと看板が突き出ていて、魚獲るべからずと(意味だけは分かる)書いてありました。

傾いているところを見ると、何年か前に立てた看板でしょう。

もう説得力は乏しいよ、とでもいう風にその上にカワセミがとまっていました。カワセミに冗談は通じませんな。

岩本久則



会員になって一緒にコアジサシを守りましょう!
NPO法人リトルターン・プロジェクトでは、随時会員を募集しています。わたしたちと一緒に絶滅の恐れのある野鳥“コアジサシ”を守りませんか?

◇入会届のダウンロード先◇

<https://littletern.net> のメニューから入会案内へ

◇入会届の送付先◇

〒143-0015 大田区大森西5-10-22 増田方

NPO 法人リトルターン・プロジェクト宛

または、E-mail: info@littletern.net

へご連絡ください。

◇発行: NPO法人リトルターン・プロジェクト

◇編集 増田直也

◇表紙画 岩本久則

☆問い合わせ先

E-mail: info@littletern.net

NPO 法人リトルターン・プロジェクト

Website-URL <https://littletern.net>



HPはこちらから

ブログ更新中 <https://littletern.hatenablog.com/>